

| | |
|------------------|---|
| Title | 対人ストレス過程における個人差の検討：拒否に対する感受性に着目して |
| Sub Title | |
| Author | 小川, 万理子(Ogawa, Mariko) |
| Publisher | 慶應義塾大学大学院社会学研究科 |
| Publication year | 2005 |
| Jtitle | 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学： 人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.60 (2005.) ,p.162- 165 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 平成16年度[慶應義塾大学]大学院高度化推進研究費助成金報告 |
| Genre | Departmental Bulletin Paper |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000060-0162 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

婦人文庫の会員数は減少していくが、読書が続けた女性たちが存在したことも事実である。女性たちは婦人文庫の活動を通して読書習慣を身につけ、共同で学習することに積極的な意味を見出すようになっていく。女性たちの読書に対する姿勢は、かつての時代に遅れずについていくという他律的なものから、「利益」を度外視し、読書をしたいという意志に基づいてそれを実行するという自律的なものへと変化しているといえよう。

そしてこのような自律的な読書が成立した背景には、婦人文庫における集団的な読書活動がある。女性たちは婦人文庫の活動を通して自分と同じような境遇にあり、悩みを共有する仲間と出会うことで、読書行為に参入していった。ゆえに、女性たちにとって読書という行為は自分自身と周囲の状況を媒介するとともに、自分の考えを再確認し、外界に向けて発信していく核となるものであったのである。

なお、本研究では戦前の読書活動との連続性や 1970 年代以降の活動のあり方に関しては明らかにすることができなかった。これらの問題に関しては今後の課題としたい。

謝辞：本研究の調査に際しては、飯伊婦人文庫の方々、松澤太郎・緑氏、今村兼義氏、および飯田市立中央図書館の方々に多大なご協力をいただいた。ここに改めて感謝申し上げます。

* 慶應義塾大学大学院社会学研究科教育学専攻博士課程

対人ストレス過程における個人差の検討

——拒否に対する感受性に着目して——

小 川 万 理 子*

対人関係にまつわるストレスフルなイベント（対人ストレッサー；口論など）は健康状態にとりわけ大きな悪影響を及ぼすことが知られているが、どの程度ストレス反応（健康度の低下）を呈するかには個人差がある。本稿では、拒否に対する感受性 (rejection sensitivity; RS) の高い者が何故高いストレス反応性を示すのかについて、ストレスコーピングとの関連から検討する。

RS とは、拒否されると不安を伴って予期し、また拒否をすぐに知覚して過剰反応しやすい傾性をさす (Downey & Feldman, 1996)。Downey らはこのうち、拒否についての予期とそれに伴う不安・懸念が RS の中核であるとし、両者を測定する尺度 (Rejection Sensitivity Questionnaire; RSQ) を開発した。すなわち、両親・友人・恋人といった重要他者から拒否されると予期し、なおかつそれについて不安を強く感じやすい者が RS の高い者 (HRS) とみなされる。

RS が対人関係での経験や、この経験による健康状態の変化に影響することが RSQ を用いた研究から示されてきた。まず RS と対人ストレッサーの経験については、RS の高さが恋人との破局 (Downey, Freitas, Michaelis, & Khouri, 1998) や暴力を伴う葛藤 (Purdie & Downey, 2000) の経験に結びつくことが示されている。そして健康状態への影響について、Ayduk, Downey, & Kim (2001) は、恋人に別れを切り出された場合が高ストレス、自分から切り出すか円満に別れるか、あるいは関係が継続している場合が低ストレスとみなして検証し、HRS ほど高ストレスの経験によって抑うつを増加させることを示している。同様の傾向は、我が国の大学生についても明らかにされている。HRS ほど対人ストレッ

サーを経験しやすく（小川，2003），かつこのような経験によって健康状態がより阻害されやすい（小川，2004）との報告がなされている。

このHRSが示すストレス反応性の高さには，コーピングが関与していると考えられる。コーピングとは，「有害，あるいは個人の資源を超えていると評価された外的・内的要求に対応するための認知・行動的努力」のことを指す（Lazarus & Folkman, 1984）。そしてこれまでに，パーソナリティ傾性がコーピング方略の選択に影響を及ぼすことがストレス反応の程度の違いに結びつくことや，コーピングのストレス低減効果に違いをもたらすことが報告されている（e.g., Bogler & Zuckerman, 1995）。

このことを踏まえ，本報告ではRSがコーピングの選択に影響を及ぼすことが健康度の違いに結びつくのかについて検討することとした。

方 法

調査対象者と手続き

4年制・短期大学の講義時間中に質問紙調査を実施し，回答漏れのなかった232名（男性74名，女性158名，平均20.1歳）を分析対象とした。

測 度

1. 日本語版拒否に対する感受性測定尺度（JRSQ；本多・桜井，2000）：RSQに日本人にとって馴染みのない項目（場面）に修正を加えた上で，翻訳がなされたものである。この尺度は18の対人依頼場面から構成されている。各場面において相手から拒否されることについて，「心配」と「予期」の程度を各々6件法で回答するよう求めた。項目得点は「心配」と「予期」を掛け合わせることで算出した（本多・桜井，2000）。なお，本研究では，質問項目文の主語の位置を変える等の変更を一部に施した上で使用した。項目文を一部変更したために主成分分析を行い，第1主成分への負荷量が，35以上となった16項目分の平均項目得点を以下の分析で使用することとした。
2. Tri-axial Coping Scale-24（TAC-24；神村・海老原・佐藤・戸ヶ崎・坂野，1995）：「肯定的解釈」「カタルシス」「回避的思考」「気晴らし」「計画立案」「情報収集」「放棄・諦め」「責任転嫁」というコーピング方略，各3項目から構成された尺度である。本研究では岡安（1992）による対人関係ストレス状況の説明文を提示し，家族・友人・恋人との間でこのような状況を経験した際に普段選択している方略について，その選択頻度を5件法での回答を求めた。8つの方略ごとの合計得点を算出した。
3. ストレス反応尺度（尾関，1993）：「情動的反応」15項目，「認知・行動的反応」10項目，「身体的反応」10項目から構成された尺度である。最近1週間に自覚した心身の健康状態について，4件法での回答を求めた。本稿では全ての項目を合計した「総ストレス反応」得点に関する結果を報告する。

結 果

拒否に対する感受性がコーピング方略の選択に及ぼす影響

RSとコーピング方略との間の相関係数を算出した（Table 1）。結果，「RS」と「放棄・諦め」「責任転嫁」との間に有意な正の相関が示され，「RS」と「肯定的解釈」「気晴らし」「計画立案」との間に有意な

Table 1 RS とコーピング方略間の相関係数

| | RS |
|-------|---------|
| 肯定的解釈 | -.36*** |
| カタルシス | -.10 |
| 回避的思考 | -.10 |
| 気晴らし | -.23*** |
| 計画立案 | -.17** |
| 情報収集 | -.07 |
| 放棄・諦め | .15* |
| 責任転嫁 | .16* |

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

Table 2 ストレス反応尺度についての重回帰分析

| | 総ストレス反応 |
|---------------------------|---------|
| RS | .21** |
| 肯定的解釈 | -.33*** |
| カタルシス | .05 |
| 回避的思考 | .00 |
| 気晴らし | .00 |
| 計画立案 | .18* |
| 情報収集 | .01 |
| 放棄・諦め | .20** |
| 責任転嫁 | -.04 |
| <i>Adj. R²</i> | .16*** |

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

負の相関が示された。

拒否に対する感受性・コーピング方略が健康状態に及ぼす影響

「総ストレス反応」を従属変数とする重回帰分析を行った (Table 2)。その結果、「RS」「計画立案」「放棄・諦め」からの正の β と、「肯定的解釈」からの負の β が有意となった。

考 察

本研究の結果から、まず RS がコーピング方略の選択に及ぼす影響については、HRS ほど「放棄・諦め」と「責任転嫁」方略を選択し、逆に、「肯定的解釈」「気晴らし」「計画立案」方略を選択しない傾向にあることが示された。HRS は対人ストレスを経験した際、そのストレス状況が悪化していくと予想しやすいのかもしれない。そのため状況を肯定的に捉え直したり問題解決に向けて計画を立てたりせず、解決を諦めている可能性があるが、これについては今後直接的な検討が必要である。

次に健康状態への影響については、HRS が頻繁に用いる方略のうち、「放棄・諦め」方略が「総ストレス反応」を増加させていた。一方で HRS があまり用いない方略のうち、「計画立案」方略は「総ストレス反応」を増加させていたが、逆に「肯定的解釈」方略は「総ストレス反応」を低減させており、健康状態に対する「肯定的解釈」方略の肯定的な影響力が相対的に大きいことが示された。これら「肯定的解釈」と「放棄・諦め」の影響については、青山・濱口 (2001) の報告と類似している。これらの結果から、対人関係上の問題の解決を放棄するような方略をあまり用いず、逆にストレス状況の中に肯定的な面を見出そうとする方略を用いるようにすることによって、HRS のストレス反応が低減しようと示唆された。

最後に今後の課題として、ストレスを分析に含めること、縦断的調査を行って因果関係を明確化することが挙げられる。これらの取り組みにより、RS の高いストレス反応性に関わるコーピングの役割がより明確になると考えられる。

引用文献

青山香菜子・濱口佳和 2001 ストレス対処方略の相補的影響—学校適応感・ストレス反応への影響の比較— 千

- 葉大学教育学部紀要 (I: 教育科学), 49, 19-28.
- Ayduk, O., Downey, G., & Kim, M. 2001 Rejection Sensitivity and depressive symptoms in women. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 27, 868-877.
- Bolger, N., & Zuckerman, A. 1995 A framework for studying personality in the stress process. *Journal of Personality and Social Psychology*, 69, 890-902.
- Downey, G., & Feldman, S. 1996 Implications of rejection sensitivity for intimate relationships. *Journal of Personality and Social Psychology*, 70, 1327-1343.
- Downey, G., Freitas, A. L., Michaelis, B., & Khouri, H. 1998 The self-fulfilling prophecy in close relationships: Rejection sensitivity and rejection by romantic partners. *Journal of Personality and Social Psychology*, 75, 545-560.
- 本多潤子・桜井茂男 2000 日本語版 RS 測定尺度の作成 筑波大学心理学研究, 22, 175-182.
- 神村栄一・海老原由香・佐藤健二・戸ヶ崎泰子・坂野雄二 1995 対処方略の三次元モデルの検討と新しい尺度 (TAC-24) の作成 教育相談研究, 33, 41-47.
- Lazarus, R. S., & Folkman, S. 1984 *Stress, appraisal, and coping*. New York: Springer.
- 小川万理子 2003 拒否に対する感受性とライフイベント, ストレス反応との関連 日本心理学会第 67 回大会発表論文集, 1020.
- 小川万理子 2004 拒否に対する感受性とライフイベント, ストレス反応との関連 (2) 日本心理学会第 68 回大会発表論文集, 955.
- 尾関友佳子 1993 大学生用ストレス自己評価尺度の改訂—トランスアクションナルな分析に向けて— 久留米大学大学院比較文化研究科年報, 1, 95-114.
- 岡安孝弘 1992 大学生のストレスに影響を及ぼす性格特性とストレス状況との相互作用 健康心理学研究, 5, 12-23.
- Purdie, V., & Downey, G. 2000 Rejection sensitivity and adolescent girls' vulnerability to relationship-centered difficulties. *Child Maltreatment*, 5, 338-349.

* 慶應大学大学院社会学研究科教育学専攻博士課程